



AUKUSの概要



防衛省
令和6年9月

- 2021年9月、豪英米3カ国の首脳は、インド太平洋地域の外交、安全保障、防衛協力を深化するため、3カ国間安全保障パートナーシップ「AUKUS（オーカス）」の設立を発表。
- AUKUSの取組は大きく分けて2つ：
 - ✓ **豪州の通常兵器搭載原子力潜水艦取得への支援（Pillar I）** (SSN-AUKUS)
 - ・ 3つの段階を経て原潜を取得：①豪に米英原潜をローテーション展開②米製バージニア級を取得③新型潜水艦を3国で共同開発
 - ・ 原子力推進の潜水艦を取得するが、核兵器は製造・搭載せず。また、豪州では核燃料の製造は行わない（米英が提供）
 - ✓ **先進能力に関する技術協力（Pillar II）**
 - ・ 現在サイバー、人工知能をはじめとする8分野で技術協力を実施
 - ・ ワーキング・グループを通して協力を進展。自律型無人機の共同試験や新型潜水艦の開発に寄与する潜水艇・量子コンピュータ開発等を実施
- 2024年4月、AUKUSの3カ国は共同声明を発表。
同声明では、技術協力等に関する「Pillar II」に関し、パートナー国と協力可能な分野について協議を開始する予定であることが示され、日本の「Pillar II」への参加が検討されている旨言及。
- 2024年9月、AUKUS共同声明にて、「Pillar II」のうち、日本と初期的に海洋無人機システムの分野において協力することを発表。
また、今後カナダ、NZ、韓国とも「Pillar II」における協力を模索していくことも言及。

これまでのAUKUSの主な歩み

2021	9月	豪英米首脳オンライン共同会見でAUKUS発足を発表
2022	4月	AUKUS共同声明及びウェブサイトを発表し、AUKUSの進捗を公表
	12月	初のAUKUS国防相会談
2023	3月	AUKUS首脳会談で豪州の原潜取得方針を決定
	12月	2回目のAUKUS国防相会談
2024	9月	3回目のAUKUS国防相会談

AUKUS発足時の豪英米首脳による発言



モリソン豪首相
(当時)

○最初の大きな取り組みは、**豪に原子力潜水艦群を提供**することであり、**アデレードでこの潜水艦を建造**する予定。
○豪は核兵器の獲得や民生用核戦力の確立を目指しておらず、**今後も核不拡散の義務をすべて果たしていく。**



ジョンソン英首相
(当時)

○潜水艦は原子炉を動力源とするものであり、**核兵器を搭載するものではない。**
○原子力潜水艦を保有する国は限られ、どの国にとっても、この**恐ろしい能力を手に入れることは重大な決断。**



バイデン米大統領

○3国間の協力関係を深め、正式なものにするための**歴史的な一歩を踏み出した。**
○ASEAN、クアッド、同盟国等と協力して、**自由で開かれたインド太平洋を維持**し、平和と機会の未来を築いていきたい。



オンライン共同会見（21年9月）



SSN-AUKUS(※イメージ図)



AUKUSの概要



Pillar I:通常兵器搭載原子力潜水艦 (Conventionally-Armed, Nuclear Powered Submarines)

○23年3月、豪英米3カ国は、AUKUS発足以降18カ月間検討をしていた、豪州の原子力潜水艦取得に係る方針

「最適な経路 (Optimal Pathway)」を発表。

○同計画では、豪州が原潜を取得するまでの段階として、以下の点を示す。

- ① 2027年から米英の攻撃原潜を豪州西岸の海軍基地にローテーション展開
- ② 2030年代初頭に米国からバージニア級攻撃原潜を最大5隻購入
- ③ 英次期攻撃原潜の設計をベースに豪英共通のSSN-AUKUSを3国で共同開発。

同原潜は、豪英の2カ国が保有する。

英国



豪州



原潜の利点

ステルス性

敵に探知される可能性が大幅に低い

スピード

通常動力潜水艦よりスピードが速く、航続距離に影響なく高速

航行可能

航続距離

物資補給や乗組員の休憩の必要性を除けば、理論上無限に航行可能

原潜の建造・維持整備場所

<原潜建造>

- ・豪国有企業ASCと英BAEシステムズの合併会社を造船会社を選定。
- ・豪州用SSN-AUKUSは豪州南部のオズボーン・ノース造船所で建造
- ・英国用SSN-AUKUSはBAEシステムズのバロー造船所で建造

<原潜維持整備>

- ・豪州西部のスターリング海軍潜水艦基地で、米英がローテーション展開する原潜の維持整備を実施。豪国有企業ASCを豪海軍バージニア級・豪海軍SSN-AUKUSの維持整備会社を選定。
- ・英国については、バブコック・インターナショナル・グループ (BAB) のデボンポート造船所にて維持整備を実施する予定。

AUKUS Optimal Pathway

産業労働力の投入 (2023より)

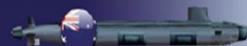
2023~豪への英米原潜寄港増加

2027~米英原潜豪へのローテーション展開



2030年代初頭豪州が取得

豪A-77級潜水艦



2023~豪造船所設計・施工

SSN-AUKUS建造 (2020年代の間)

2030年代後半SSN-AUKUS英国引渡

2040年代初頭SSN-AUKUS豪州引渡



コリンズ級潜水艦



2023

2033

2043

2053

Stewardship Pathway

豪英の原潜取得のプロセス

<第1段階>

- ・2023年から、豪州軍人・文民を、米英海軍や産業基盤に常駐させる。同年から、米国原潜の豪州寄港を増加し、豪州人員も乗船。
- ・2026年から、英国原潜の豪州寄港を増加。
- ・2027年にも、米英両国は豪西岸のスターリング基地に英アスチュート級原潜1隻と米バージニア級原潜4隻をローテーション配備。

<第2段階>

- ・2030年代初頭に、米国議会の承認後、豪州は米国からバージニア級原潜3隻を購入 (必要に応じて2隻を追加購入の可能性)。

<第3段階>

- ・米国の最新潜水艦技術を取り入れ、英国の次期原潜設計をベースとした原潜SSN-AUKUSを3カ国で共同開発。
- ・2020年代の終わりまでに豪英それぞれの造船所で建造開始を計画。
- ・2030年代後半に、英国が最初のSSN-AUKUSを配備
- ・2040年初頭、豪州が最初のSSN-AUKUSを配備。



AUKUSの概要



Pillar II : 先進能力 (Advanced Capabilities)

- 21年 9月、AUKUS発足とともに、豪英米は、「Pillar II」として、4分野（サイバー、人工知能/自律性、量子技術、海中能力）を提示。
- 23年 9月、豪英米はファクトシートを発表し、新たな4分野（極超音速・対極超音速能力、電子戦、技術革新、情報共有）を追加した計8分野で協力していくことを表明。
- 23年12月、豪英米は、「Pillar II」の内容を細分化し、**12項目へのコミットメントを表明。**
- 24年 4月、「Pillar II」において、**日本との協力を検討していること**を発表。同年9月、**海洋無人機システムの分野において初期的に日本と協力することを発表。**

共同声明記載の12項目（23年12月）

日本との協力を発表

①AUKUS海上自律実験・演習シリーズ (AUKUS Maritime Autonomy Experimentation and Exercise Series)

- ・海上領域における自律システムの高度化と規模拡大を目的とした一連の統合的な3カ国共同実験・演習を実施。
- ・無人海上システムを共同運用し、3カ国すべての海上データを共有・処理し、意思決定を支援するリアルタイムの海上領域把握を提供する能力をさらに試験・改良。

②豪英米の対潜戦 (Trilateral Anti-Submarine Warfare)

- ・各国のソフイからのデータを処理するために、P-8A海上哨戒機を含む複数のシステム上で共通の先進人工知能 (AI) アルゴリズムを実証したところであり、これから実装予定。こうした共同の進歩により、タイムリーな大量データ解析が可能になり、対潜戦能力が向上。

③海中機の発射と回収 (Undersea Vehicle Launch and Recovery)

- ・打撃や情報・監視・偵察などの効果を提供するために、現有潜水艦の魚雷発射管から海中機を発射し、回収する能力を統合。

④量子測位・航法・タイミング (Quantum Positioning, Navigation, and Timing)

- ・AUKUSメンバー国は、軍事能力における測位、航法、タイミングのための量子技術の開発を加速。GPSが弱い環境における三国間部隊の抗たん性を高め、海中領域におけるステルス性を強化し、SSN-AUKUSも支援するもの。

⑤抗たん性のある自律的人工知能技術 (Resilient and Autonomous Artificial Intelligence Technologies (RAAIT))

- ・人工知能アルゴリズムと機械学習を提供し、部隊防護、精密ターゲティング、情報・監視・偵察の強化を企図。

⑥深宇宙先進レーダー能力 (Deep Space Advanced Radar Capability)

- ・深宇宙における物体を探知、追跡、識別し、宇宙領域把握を向上させるために、24時間全天候型全地球観測を提供する「深宇宙先進レーダー能力」プログラムにおける三国間協力を推進
- ・レーダー・サイトを米国、英国、豪州に設置。西オーストラリア州にある最初のレーダー・サイトは2026年に運用が開始され、10年後までには3サイトすべてが運用される予定。

⑦サイバー (Cyber)

- ・サプライチェーンのサイバーセキュリティを向上させるとともに、AUKUSに対する脅威をより深く理解するための先進的なツールを導入するべく、産業パートナーと協力。

⑧三国間要件の確立 (Establishing Trilateral Requirements)

- ・豪英米の国防副長官/副大臣が共同議長を務める国際統合要件監督評議会が、抑止力と、抑止力が失敗した場合に勝利する能力に貢献する、3カ国に共通する運用に必要なものを特定し、検証するための重要な共同フォーラムであることを指摘。

⑨AUKUSイノベーション・チャレンジ (AUKUS Innovation Challenges)

- ・3つのイノベーション・エコシステムにまたがる企業が、共通のイノベーション課題内容で賞を競うことができる一連のイノベーション・チャレンジを開始。
- 2024年3月、電子戦に焦点を当てた初の3カ国イノベーション・プライズ・チャレンジを開始。

⑩防衛貿易と産業基盤の協力 (Defense Trade and Industrial Base Collaboration)

- ・機密軍事技術、データ、ノウハウの移転の指針となる同等の安全保障基準を導入するとともに、政策とプロセスを合理化することにより、3カ国間のより深く迅速な防衛貿易を促進。
- 米・英・豪は三国間の防衛貿易を促進するため、輸出管理免除等の国内法制度改革を進めている。

⑪AUKUS先進能力産業フォーラム (AUKUS Advanced Capabilities Industry Forum)

- ・先進能力の開発と提供を促進するための政策、技術、商業の枠組みに関する情報提供を支援するため、3カ国の政府と産業界の代表による常設の産業フォーラムを設立・招集。

⑫AUKUS防衛投資家ネットワーク (AUKUS Defense Investors Network)

- ・AUKUS防衛投資家ネットワークの創設を歓迎することにより、民間セクターの関与を強化・拡大し、3カ国すべての現在のネットワークを活用して、資金調達を強化し、目標とする産業間のつながりを促進。